

評価シート 2

2 基本計画の方針に基づく教育等の進捗状況（令和6年度）

【評価区分】◎：想定以上に進んでいる ○：想定どおりに進んでいる △：目標を達成するために更に努めていく（努める必要がある）

方針	項目	指標	目標値	実績		進捗評価	主な取組実績	自己評価	外部評価	委員意見
現場主義に徹した人材育成	・世の中の動きを掴み、絶えず現場ニーズを反映 ・生産現場で多様な人と協力できる力（コミュニケーション力、人間力）の育成 ・現場力（使命感＋チームワーク＋技術＋経験）を身に付けられる教育	実験・実習の授業時間数の割合	60%以上	静岡	60.6%	○	■少人数教育と実験・実習を重視した実践的なカリキュラムを実施した。 ・172単位、3,120時間(2年間) ■技能検定等の各種資格の修得に対応したカリキュラムにより、学生の資格取得を勧奨した。 ■地域企業との協働による教育の実施と教員の資質向上を図った。 ・1年次におけるインターンシップの実施 ・専門分野のエキスパートである外部講師の活用(126人) ・企業との協働による授業の実施(4社) ・教員の企業研修への派遣(4人) ■一般教養及びキャリア支援のための科目を各科4単位、講話・講演を延べ7回実施した。	○	○	◆想定通り進んでいると思われるが、未だ定員に満たないので、満たした場合、現状のような充実した教育が出来るか不安である。まずは定員を満たしてから、正確な評価が出来ると思う。一方で「つめ込み的な教育」になっていないかの心配もあるため、学生の自主性も必要である。 ◆カリキュラムに外部の意見やニーズを取り入れる仕組みが必要。
				沼津	63.1%	○				
		インターンシップ実施率	100%	静岡	100%	○				
				沼津	100%	○				
社会の変化に対応できる能力の習得	・技術・技能の進展に対応できる高い現場力を持った人材を育成 ・リーダーになる素養を持った人材を育成 ・グローバル化への対応	工科短期大学校卒業生の就職率	100%	静岡	100%	○	■実践的な教育と、きめ細かな就職支援により、就職率100%となった。 ・県内企業等への就職率88.7% ■生産現場のリーダーとなる素養や課題発見力を身に付けるため、総合製作実習授業を実施した。 ・制御220時間、電気328時間、建築256時間、生産292時間、電子472時間、情報328時間 ■英語教育を各科で4単位ずつ実施した。 ■外国人留学生の入学者数は1人(ミャンマー)であった。	○	○	◆この内容は就職率で判断するものではない。社会の変化に対応できる能力＝学び続ける能力は、就職後に発揮されるものであり、就職先や卒業生へのアンケートにより判断されるものではないか。 ◆厳しく捉えれば、88.7%ではなく100%を目指すことが必要で、県内の就職の促進を考えるとさらに必要と感じる。県内には多くの中小企業が存在しているので、学生が知らない企業の情報提供をするべきである。 ◆外国人留学生の入学を促進する方策の検討が必要と思う。
				沼津	100%	○				
		外国人留学生の入学者数	5人	1人		△				
ライフステージに応じた職業能力の開発	・学び続け、働き続けられる人材、成長していく人材を育成 ・ライフステージ(若年者、在職者、離職者)に応じた、自己実現のための学びの場を提供	工科短期大学校の定員充足率	100%	静岡	62.9%	△	■推薦選抜(学校長・事業主)及び一般選抜に区分し、入学者選抜試験を実施した。 ■入学者増加に向け、次のような広報活動を実施した。 ・オープンキャンパス:全8日計10回 ・合同進路相談会への参加:全6回(県東・中・西部) ・動画・Web広告:LINE・Youtube・大型商業施設のデジタルサイネージによる動画配信 ・パンフレット、ポスターの配布 ・テレビ:天気コーナー広告 ・高校訪問:延べ216校 など ■在職者訓練では、全校で一般コース56科目、デジタルコース57科目(うちオーダーメイド型18科目)を実施し、825人が受講した。 ■離転職者訓練では、企業需要が高いものづくり分野を校内で、事務や医療福祉など企業と求職者のニーズに合わせた委託訓練を校外で全29コース実施し、558人が受講した。 ■施設開放では、技能検定試験及び事業主が従業員に対して行う講習等で、延べ13,165人が利用した。	△	△	◆一番の問題は、定員充足率である。少子化のせいにはいけない。世間の評判を高め、競争に打ち勝って定員が満たされるよう、あらゆる面で高みを目指してほしい。 ◆静岡キャンパスと沼津キャンパスの色分けをすべきではないかと感じる(例:機械・制御技術科と機械・生産技術科)。 ◆定員充足に向けてとにかく考えられることをやっていく必要がある。工業高校には工業高校から入学するメリットのアピール、就職が多い普通科高校や定時制課程へのアプローチなど、これまで以上の広報が必要と思う。合わせて、普通科教員への広報も必要。 ◆高校も大学も生徒・学生が少なくなる中、高大連携として高校へ訪問して一緒に学習する、逆にこちらへ来てもらって学習するなど、静岡県のものづくりを向上させる仕組みが作れるとよいと思う。 ◆更なるPRを考えた方がよい。例えば、 ①学校への定期訪問(年2～3度行くことが必要である)。 ②県外からの学生も採用するために、県の東京事務所へもPRをお願いする。 ③外国人留学生への奨学金の充実(外の経済団体からの支援)や、留学生へのフォロー体制の施業など。 ④上記全施業と共通するが、人口減少が進む中、女子学生(女子高)へも訪問してみる価値はあると思う。 ◆事業を継続するには、顧客の創造と維持を図る必要があり、学生数を必ず確保することはマーケティングである。学校の管理だけでなく、その部分が必要だということだと思う。 ◆定員充足率を上げる必要がある。外国人や社会人(事業主推薦)を積極的に取れるといいと思う。また、県外からの場合には入学金が高くなるが、このあたりを緩和すれば、県外からの受験者も増えると思う。 ◆この学校の入学金や授業料の減免制度を高校の先生に十分アピールする必要がある。 ◆就職を見据えて、休暇が多い、生み出す付加価値が高いなどの製造業の魅力を若者にアピールするとよい。
				沼津	76.7%	△				
		在職者訓練におけるデジタル化等関連分野訓練受講者数の割合	50%	静岡	34.0%	△				
				沼津	24.6%	△				
		離転職者訓練受講生の就職率	80%以上	静岡	68.5%	△				
				沼津	70.7%	△				
		施設開放利用者数(延べ人数)	5,000人	静岡	7,641人	○				
				沼津	5,524人	○				

評価シート 2

2 基本計画の方針に基づく教育等の進捗状況（令和6年度）

【評価区分】◎：想定以上に進んでいる ○：想定どおりに進んでいる △：目標を達成するために更に努めていく（努める必要がある）

方針	項目	指標	目標値	実績	進捗評価	主な取組実績	自己評価	外部評価	委員意見
ものづくりに誇りを持つ教育	・ものづくりの面白さを実感できる教育、ものづくりに誇りを持つ教育 ・ものづくりの仕事の魅力を若者や女性に発信	若年者ものづくり競技大会の入賞者数	3人	4人	○	■若年者ものづくり競技大会に5人が参加し4人が入賞した。 ・フライス盤：金賞1人、銀賞1人、旋盤：敢闘賞1人、電子回路組立て：敢闘賞1人 ■女性の入校を促進するため、パンフレットで女子学生の活躍状況や女性も利用しやすい施設であることを紹介するなどのイメージ発信を行った。 女性の入学者数は8人であった。	△	△	◆女性の割合10％が適切なのか、検討が必要と思う。 ◆女性特有の体調のことを考えて休日も考慮すると、特徴が出て女子学生も集まる可能性があると思う。 ◆日本への憧れを持つ者もいるので、よく考えて海外からリケジョを入学させるとよい。 ◆パンフレットには女子学生の写真がたくさん掲載されているが、コメントが少ない印象がある。 ◆現状は未達だが、それに向けての努力はされていると思う。
		女性の入校生の割合	10%以上	6.2%	△				